

終末期のケアを実践するための基本的考え方と取り組みのために

介護保険制度が施行され約 17 年目を迎え、サービスを提供し始めた頃より、心身機能の重度化した利用者が増加していることと存じます。そして、終末期の利用者が多くなる中、ターミナルケアのニーズが施設及び在宅で高まっています。

ターミナルケア加算が適用されるなど、国もターミナルケアの後押しをしており、施設系サービスを中心にターミナルケアを始める事業所も増えています。

しかし、事業所によって、ターミナルケアの取り組みには大きな差があるようです。利用者の容態の急変があり、家族の思いも大きく揺れ動く終末期において、適切なケアを行うには、事業者のターミナルケアの考え方から、職員の能力向上、職員のバックアップ、家族との連絡体制や医療連携の確立等様々な検討と準備が必要不可欠です。ターミナルケアに関する正しい知識と技術がなければ、十分な検討や準備を行う事ができず、利用者や家族にとって納得のいくターミナルケアを実践することはできません。

利用者が安らかに旅立ち、そしてご家族が悔いを残さないよう、ターミナルケアの実践に必要な知識と技術及び考え方を点検する勉強会を企画いたしました。

是非この機会に本研修をご受講いただき、より良いターミナルケアの実践の一助にさせていただけることを心より願っております。

受講生の声: ●今迄沢山の看取りをしてきましたが、何か違うと思っていたモヤモヤ感が無くなりました。自分のやれたかったことは「これだ!」と感ずることができました。●「どう看取るか」ではなく「どう生きるか」を支援していこうと思いました。●先生の貴重な体験、胸が熱くなるお話しばかりでした。●一日一日の生活を大切にしていくことの大切さ痛感しました。●日々の支援の考え方も変わりました。●心の通え合える職員育成が大事ですね。●命について考え行動できるようになりたいです。●ケアの仕方であんなに変わるものかと驚きでした。●この仕事を選んで本当によかったと思いました。●一緒に考え支えようとする思いが、最期の姿、家族の言葉に表れるのですね! ケアの在り方を考え直す機会、感謝です。

9/15 9:30~16:30 受講費 10,300円

①	②	③	④	⑤
①	ターミナルケアの基礎	①ターミナルケアとは②ターミナルケアの考え方と歴史	①	事例紹介
②	ターミナルケアの体制作り	①病院と施設・在宅の違い②事業所の体制作り、医療等との連携	①	加算の条件②書類整備
③	ターミナルケアの実際	①死を直前にした観察とケアのポイント②家族への支援		
④	事例を通してターミナルケアを考る			
⑤	ターミナル加算について			

講師紹介 大瀧厚子先生 保健師・看護師・介護支援専門員 福祉施設士 元特別養護老人ホーム施設長

慶応義塾大学病院の内科病棟に勤務した後、新潟の地域病院に勤務。介護老人保健施設の立ち上げに携わり介護保険制度の施行に伴い介護支援専門員として大手企業にて新規事業所の立ち上げを行う。その後、平成 14 年に特別養護老人ホームの施設長に就任。現在は独立され、介護職や医療職を対象にターミナルケアや医療に関する講演を全国で展開中。

主な著書:『生活の場のターミナルケア』、『介護スタッフのための安心! 医学知識』、『介護職のための医学知識ガイドブック』、『ここから始める介護』ほか著書多数。

申込方法: 電話、ファックスにて受付いたします。締切: 全て先着順になります (80 名)

問合せ先: お茶の水ケアサービス学院 事務局 TEL: 03-3863-4000

受講対象: 介護従事者等どなたでも受講可能

研修会場: 北農健保会館 札幌市中央区北 4 条西 7-1-4 JR 札幌駅 徒歩 6 分

ファックス 03-3863-4006

お名前	フリガナ	事業所名	
住所	(〒 -)	(事業所・自宅)	
TEL		FAX	

※お申し込み後(申込日を 1 日目とします)、7 日目以降のキャンセルについては、お振込前でも受講料の半額がかかります。

また、9/1 以降のキャンセルについては全額のキャンセル料がかかりますのでご注意ください。

※キャンセルのご連絡がない場合は、キャンセル扱いにはなりませんのでご注意ください。